



これが好き!

音楽

×

沖縄そば屋

好きを重ねてつながった、
島唄×そばの道

かみや ちひろ
神谷 千尋さん

津堅島育ちの歌手・神谷千尋さんが、家族で「すば家ゆーばる麺方」を開いて1年。歌とそばの二刀流の日々と、「好き」を重ねてたどり着いた道のりを聞きました。

津堅島で生まれ育ちました。家族が営む島の民宿・神谷荘では、沖縄そばを出したり、家族で民謡ショーを開いたり。初舞台は3歳です。ただ当時、同世代の中でも民謡は「古い」というイメージが強く歌う恥ずかしさもあり、むしろファッションに興味がありました。そんな時にレコード会社の社長から「あなたの歌を世界中に届けませんか」と声をかけていただき、歌の世界へ。そして昨年7月、津堅島で愛されたそばの味を本島の人にも広めたいと、家族で「ゆーばる麺方」を開きました。営業後は片付けの合間に、家族で歌ったり踊ったり。それがリフレッシュにもなっています。

この生活で大変なのが気持ちの切り替えです。土日は店が終わるとすぐ

ステージに向かい、自分の世界を作って表現しなければいけません。子育てもありますし、今が一番の駆け足です。とはいえ利点もあって、舞台上で歌詞が飛んでもアドリブで乗り切る経験が、接客での臨機応変な対応に生かしています。家族なので阿吽の呼吸で通じ合えるのも強みです。

歌の道に進んでも、ファッションへの思いは消えませんでした。琉装ではなく、好きな服で好きな島唄を歌いました。反対意見があっても「私は私」と衣装を自分で決めてきたことで、夢だったファッションも歌に生かせました。

島唄もお店もファッションも、はっきり描いた夢ではなく、「好き」や「得意」の積み重ねでした。それらが自然

につながって、今の私があります。だから将来に不安を抱く若い方も、「何が好きかな」から始めてみては？と伝えたい。「これ好きかも」を重ねるうちに、たどり着くものがきっとあります。

私の宝物



「ゆーばる麺方」の沖縄そば。豚、鶏、昆布、カツオの旨味が溶け合うスープが自慢